



グリーン交悠録

ゴルフが取り持つ名士たちとの出会い
本誌創刊55年の交悠録④

日本企業の国際化黎明期に コースに散った服部一郎氏

本誌主幹

大中吉一



まぼろしとなった
国際人たちのゴルフ会

新型コロナウイルス感染症の影響もあって、このような状況下で、交悠録も回顧録の形式となり、今回で4回目です。今回は、日本の企業人として国際化に尽力された方との叶わぬプレーについてお話ししたいと思います。

1987年（昭和62年）5月末のことでした。当時のセイコーエプソン株式会社社長の服部一郎氏、富士ゼロックスの小林陽太郎社長、I O C の猪谷千春副会長と私の4人でゴルフをしようということになっておりました。

服部一郎氏は、現在のセイコーホールディングス株式会社の創業者である服部金太郎氏の孫であり、その年に日本国際フォーラムの初代理事長になったばかりでした。彼は我々とのゴルフの1週間前に米国から帰国。成田空港からそのまま川奈ホテルゴルフコースに直行し、ロータリークラブの懇親ゴルフ会に出席したのです。ところがそのプレー中、5番のショートホールのティーグラウンドで順番待ちをしているところで、ベンチに座ったまま息を



川奈ホテルゴルフコース

引き取られたのです。

その1週間後に予定されていた私の企画したゴルフ会のメンバーは、前出のように、この服部一郎氏と、富士ゼロックスの社長の小林陽太郎氏、そして1956年のコルチナダンペツォの冬季五輪におけるアルペンスキーでメダルを獲得する目覚しい成績を残された猪谷千春氏と私の4人のメンバーが予定されていました。

言ってみれば、起業家としての服部一郎氏と小林陽太郎氏、そして日本人唯一の冬季五輪アルペンスキーのメダリストである猪谷千春氏という国際人を集めたゴルフ会だったので。

服部氏はスイスのチューリッヒ大学、米国のエール大学への留学経験を持ち、第二精工舎の社長として事業の多角化とともに国際化を推進した人物で、兼任していた諏訪精工舎では、社長として腕時計の製造から新たな業態への発展を遂げ、セイコーエプソンの礎を築いた人物でした。

小林氏は、お生まれが英国のロンドンで、慶應大学の経済学部を卒業後、米国ペンシルベニア大学のウォートン・スクールを終了しMBA(Master of Business Administration)経営学修士)を取得された人物で、我が国が戦後の復興を遂げ、多くの企業が国際化し、海外に進出する中、そこで活躍された多くの企業人の中でも屈指の人物で、経済同友会終身幹事(元代表幹事)でもあります。

そして猪谷氏も現役引退後は、AIU保険会社のニューヨーク本社で2年間の研修を受け、1961年にAIU日本支社の傷害保険部初代部長に就任すると、企業家として目覚ましい活躍をされ、1978年に47歳という若さで、AIUのグループ会社であるアメリカンホーム保険会社の社長に就任しまし

た。また、国際オリンピック委員会(IOC)副会長など、オリンピック・スポーツ関連団体での要職を歴任されています。

プレーのみならず ゴルフがもたらす交悠録

当時、ソニーの盛田昭夫氏、キッコーマンの茂木友三郎氏など、若き企業人の活躍で日本は国際社会に進出し、目覚ましい発展を遂げている時期でした。

私はこの3人と一緒にゴルフをすることを楽しみにしていたのですが、服部一郎氏の劇的な急逝を受け、小林氏に電話をしました。相談の結果、今回は服部氏の喪に服することとし、このメンバーでのゴルフ会は中止となったのです。

それまでもこのメンバーでのゴルフは何回か経験がありました。考えてみれば私も含めて4人とも多忙を極める日々を送っていた訳であり、誰が服部氏のようにゴルフ場で倒れてもおかしくなかったのです。

しかしながら、日本の国際化に寄与され、わずか55歳という若さで亡くなられた服部一郎氏を思うと、今

でも落胆の念が解けません。

服部氏は日本の企業人として初めて、海外の優良企業の社外取締役を務められ、日本の経営スタイルを世界に広めた功労者でもありました。

ゴルフの腕前はシングルとはいきませんが、類希な紳士であり、人間の魅力にあふれた方で、経営者としてはもちろん、ゴルフアールとしても素晴らしいセンスをお持ちの方でした。各方面からの人望も厚く、世界中を駆け回り回る多忙な日々を送っていたらっしゃいました。そうした日々が、まだまだ活躍を囑望された彼を死に追いやったのではないかと考えると慙愧の念に耐えられません。当日ご一緒する予定だった小林陽太郎氏も、2015年に逝去されました。小林氏もロックフェラーが関与した日米欧の三極委員会のメンバーとして世界を駆け巡っていたらっしゃいました。小林氏は東急の五島昇氏、味の素の鈴木三郎助氏と並ぶ日本上場企業経営者を代表するシングルプレーヤーであり、スコアはもとよりその紳士的なプレーぶりでも名を馳せた人物でした。

そしてまだご存命の猪谷千春氏。

コルチナ・ダンベッツォで開催された冬季五輪でアルペンスキートの回転・大回転・滑降の金メダルを獲得し初の三冠を達成したトニー・ザイラーとともに活躍し、回転種目で2位に入り銀メダルを獲得し、日本人初の冬季オリンピックメダリストになった活躍は有名です。長野五輪の時もそうでしたが、今回の東京五輪の招致でもそのお人柄と国際人としての経験をいかなく発揮され、大いに寄与された人物でもあります。この素晴らしいメンバーでのプレーが、服部一郎氏の急逝によって実現できなかったことは、わがゴルフ交悠録の中でも特筆すべき残念な思い出です。

これからも、ゴルフを通じて様々な方との交流が生まれ、そこから新しい何かが始まっていくのだと思います。

単にゴルフを満喫するのみならず、人と人との交流と素晴らしいふれあいを大切に、読者の方それぞれが、新型コロナウイルス禍の下ですが、日々切磋琢磨し、素晴らしいゴルフ交悠録を紡がれていくことを願っております。